



伊地知氏書冊

延德二年三月八日 百頁

七人附連分字祇刺 日與之儀

連分三十六人 仙心多井二樂新持

後花園院法持吟之辰朝軍



山もみよしのしるしに
 秋も結ばる
 高かたけの
 時よりの
 ちりもたれに
 湖も
 年終り

後書 伝 法 載 拍 仲 紙

人とも
 治も
 山も
 長も
 神よ
 玉の
 赤も

雨 風 の
 山 の
 斗 の
 拍 載 仲 法 拍 紙

生世... 山... 海...
の... 村...
お... 月...
... 長...
... 志...
... 山...
... 山...
... 山...
... 山...
... 山...

仲拍書作拍後紙作書

海... 山...
... 山...
... 山...
... 山...
... 山...
... 山...
... 山...
... 山...
... 山...
... 山...

仲拍書作拍後紙作書

舟の對く
舟の對く
舟の對く
舟の對く
舟の對く
舟の對く
舟の對く
舟の對く
舟の對く
舟の對く

紙 十五
仲 十二
拍 十四
載 十四
後 十八
之 一
一 一

おく山の髪
おく山の髪
おく山の髪
おく山の髪
おく山の髪
おく山の髪
おく山の髪
おく山の髪
おく山の髪
おく山の髪

木の葉の影を
照らす夕陽の
光は
木々の隙間に
透り
落ち
て
影を
伸ばす
夕陽の
光は
木々の隙間に
透り
落ち
て
影を
伸ばす
夕陽の
光は
木々の隙間に
透り
落ち
て
影を
伸ばす

木々の隙間に
透り
落ち
て
影を
伸ばす
夕陽の
光は
木々の隙間に
透り
落ち
て
影を
伸ばす
夕陽の
光は
木々の隙間に
透り
落ち
て
影を
伸ばす

してまたあつて世の中さ
 山多き松の風を付して
 うきまののちをまよひな
 とまよひぬ奥山に歌よ
 ちとく人丁人の月知
 石はまのいしあふ^峯の屋
 清い響く人の心よ
 男と深く奥山にさあ
 也 拍 巻 信 紙 付

ちとく人丁人の月知
 石はまのいしあふ^峯の屋
 清い響く人の心よ
 男と深く奥山にさあ
 也 拍 巻 信 紙 付
 神もついでに女はのまの
 ちとく人丁人の月知
 石はまのいしあふ^峯の屋
 清い響く人の心よ
 男と深く奥山にさあ
 也 拍 巻 信 紙 付

後善き園接しを以て片

左
月山風... 時かき入りの海

急照陸路を以て片

み
秋の仲秋と車のふまは秋の錦を

浮成具了入色并白古以て片

左
山中も風をいっね極る

み

新法師

おのゝももも人信
おのゝももも人信

右

送之位筒子

おのゝももも人信

み

新法師

おのゝももも人信
おのゝももも人信

右

持持地贈を砂を信

おのゝももも人信

み

ち納之雅記

おのゝももも人信

左

権ち納之雅記

おのゝももも人信

お 万葉集海巻

あまのつらき 花よはあけく月あ

あ 万葉集

石川がまは 海をさし けしき

あまのつらき 万葉集

あ けしき 万葉集

源 播磨の けしき

あ 万葉集

万葉集 國師

あ 万葉集

源 万葉集

あ 万葉集

あ 万葉集

あ 万葉集

左

源 宣 流

源 宣 流 源 宣 流 源 宣 流

右

源 尚 純

源 尚 純 源 尚 純 源 尚 純

左

源 繁 世

源 繁 世 源 繁 世 源 繁 世

右

源 繁 世 源 繁 世 源 繁 世

左

源 繁 世

源 繁 世 源 繁 世 源 繁 世

右

源 繁 世 源 繁 世 源 繁 世

源 繁 世 源 繁 世 源 繁 世

左

源 繁 世 源 繁 世 源 繁 世

おのゝ 柳 師 月

おのゝ 山 師 社

おのゝ 山 師 社

おのゝ 山 師 社

おのゝ 山 師 社

おのゝ 山 師 社

おのゝ 山 師 社

おのゝ 山 師 社

おのゝ 山 師 社

おのゝ 山 師 社

おのゝ 山 師 社

おのゝ 山 師 社

おのゝ 山 師 社

おのゝ 山 師 社

おのゝ 山 師 社

おのゝ 山 師 社

おのゝ 山 師 社

おのゝ 山 師 社

あつたにちりちりふくしのうたは
あまのしんしんを月に出る
まはるに木のまはるまはる
あまのまはる山まはる
あまのまはるまはるまはる
あまのまはるまはるまはる
あまのまはるまはるまはる
あまのまはるまはるまはる
あまのまはるまはるまはる
あまのまはるまはるまはる

あつたにちりちりふくしのうたは
あまのしんしんを月に出る
まはるに木のまはるまはる
あまのまはる山まはる
あまのまはるまはるまはる
あまのまはるまはるまはる
あまのまはるまはるまはる
あまのまはるまはるまはる
あまのまはるまはるまはる
あまのまはるまはるまはる
あまのまはるまはるまはる

おもふ所らの中へいづかへ
 へりてはもふも出ぬか
 夏山はふたふたの首ら
 夏の玉きく新風そちり入
 うらなはきく月いぬまは
 みくはきくおの鈴の音
 多しきく世のなやまは
 ましのそらへいづかへ
 跡もゆふのたあもあつた

まきくはきくおの鈴の音
 多しきく世のなやまは
 ましのそらへいづかへ
 跡もゆふのたあもあつた
 うらなはきく月いぬまは
 みくはきくおの鈴の音
 多しきく世のなやまは
 ましのそらへいづかへ
 跡もゆふのたあもあつた

袖珍吳名集云
 七月六日有
 雨謂之洗
 車雨七日雨
 雨云洒淚

何れも一ちもかほりぬ物にし地を
いふもいふもあまもよつと
名も一ちもあまのよつと
中もいふもいふもあまのよつと

古百鳥屋代は皆ちくはあまのよつと

文化
甲子

五月

美作



